

平成29年度 「国有林モニターアンケート（第1回）」 調査結果

近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

1 国有林について

(単位: 人、%)

質問1	モニターになる以前から、国有林をご存知でしたか。	
①	知っていた	48 79%
②	知らなかった	13 21%
計		61

(単位: 回答数、%)

質問2	質問1で「知っていた」と回答された方に伺います。 国有林についてご存知だったものは何でしたか。(複数回答可)	
①	地域管理経営計画、国有林野施業実施計画の策定 (国有林野の管理経営に関する計画づくり)	12 6%
②	自然観察や森林環境教育などのイベントの開催	21 11%
③	森林整備に関する技術の開発	11 6%
④	国有林の貸付や境界管理	7 4%
⑤	森林レクリエーション(森林散策や野外スポーツなど) の場の提供	16 8%
⑥	希少な動植物の生息・生育地の保全	25 13%
⑦	森林整備(造林や間伐など)	32 16%
⑧	森林病虫害等の駆除及び予防	19 10%
⑨	民間の林業事業者の育成支援	6 3%
⑩	住宅や文化財などに使用される木材等の供給	17 9%
⑪	防災や災害復旧のための治山事業	29 15%
⑫	その他	2 1%
計		197

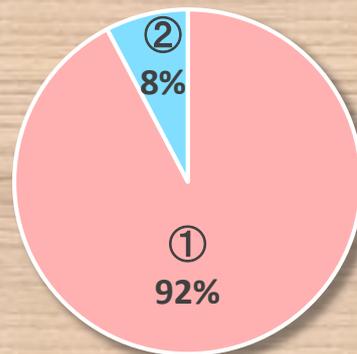
【その他の意見】

- ・開発途上国への人材育成。野生生物対策。
- ・三公社五現業の1つの営林署として。

※複数回答可のため、回答数としています。

(単位:人、%)

質問3 質問1で「知らなかった」と回答された方に伺います。 4月から各種資料をお送りしていますが、国有林モニターとなって、国有林に対する理解は深まりましたか。			
①	理解が深まった	12	92%
②	理解できていない	1	8%
計		13	



(単位:回答数、%)

質問4 質問3で「理解が深まった」と回答された方に伺います。 国有林モニターとなってから国有林について知ったことはどのようなものがありますか。 (複数回答可)			
①	地域管理経営計画、国有林野施業実施計画の策定 (国有林野の管理経営に関する計画づくり)	4	9%
②	自然観察や森林環境教育などのイベントの開催	9	20%
③	森林整備に関する技術の開発	3	7%
④	国有林の貸付や境界管理	1	2%
⑤	森林レクリエーション(森林散策や野外スポーツ など)の場の提供	5	11%
⑥	希少な動植物の生息・生育地の保全	2	4%
⑦	森林整備(造林や間伐など)	7	16%
⑧	森林病虫害等の駆除及び予防	1	2%
⑨	民間の林業事業者の育成支援	3	7%
⑩	住宅や文化財などに使用される木材等の供給	2	4%
⑪	防災や災害復旧のための治山事業	7	16%
⑫	その他	1	2%
計		45	

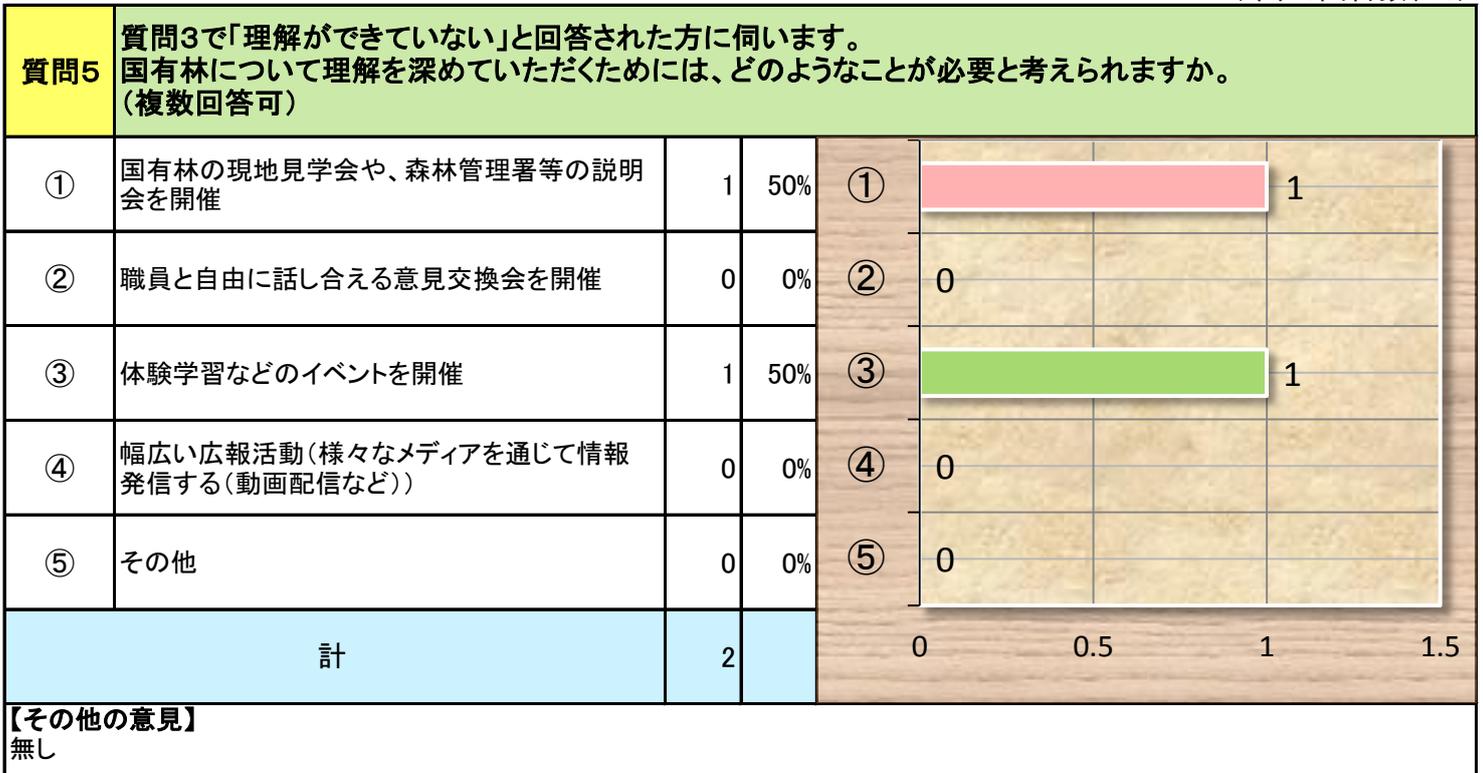


【その他の意見】

・MAP上で国有林所在地の概要を知った。

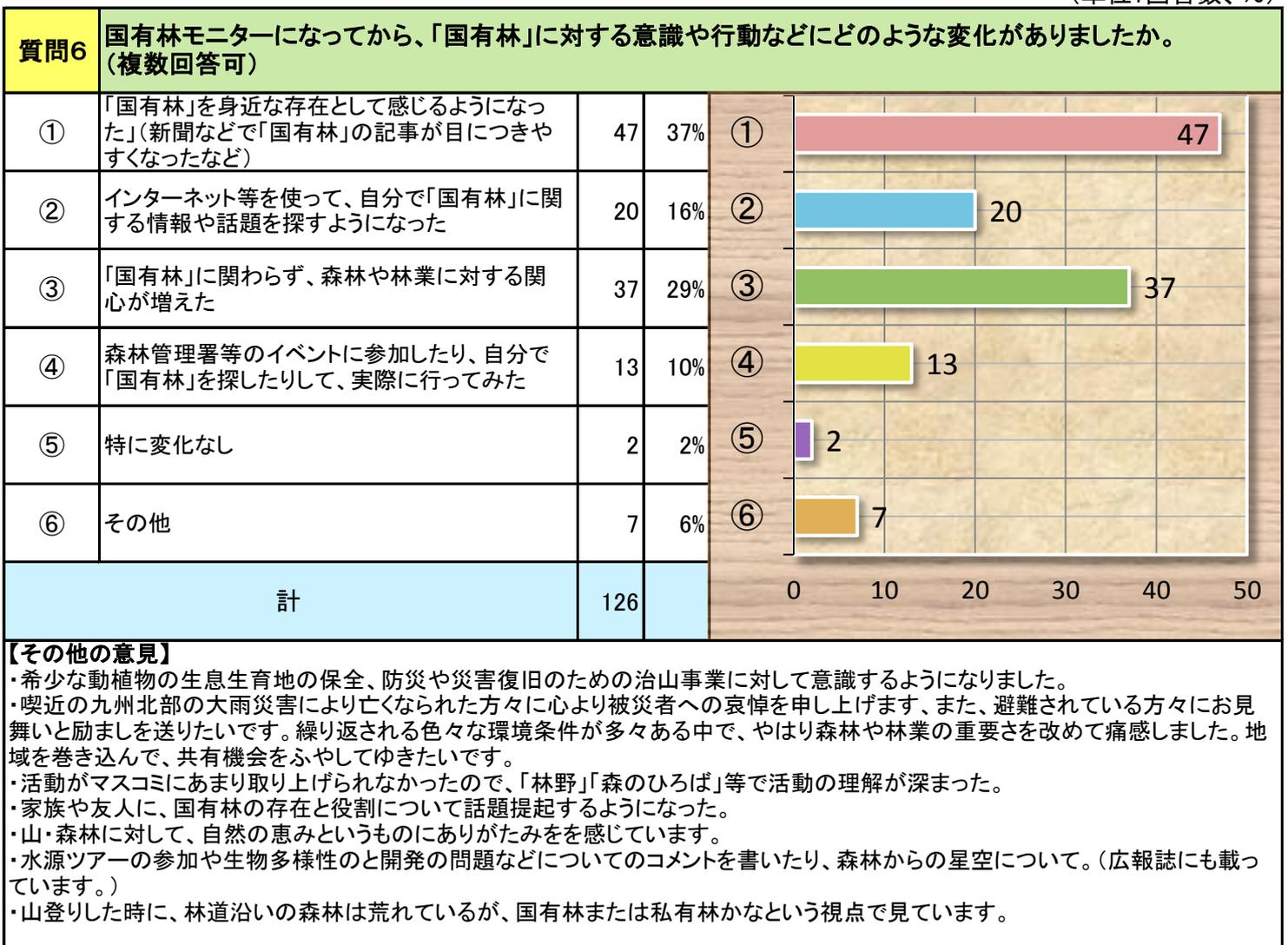
※複数回答可のため、回答数としています。

(単位:回答数、%)



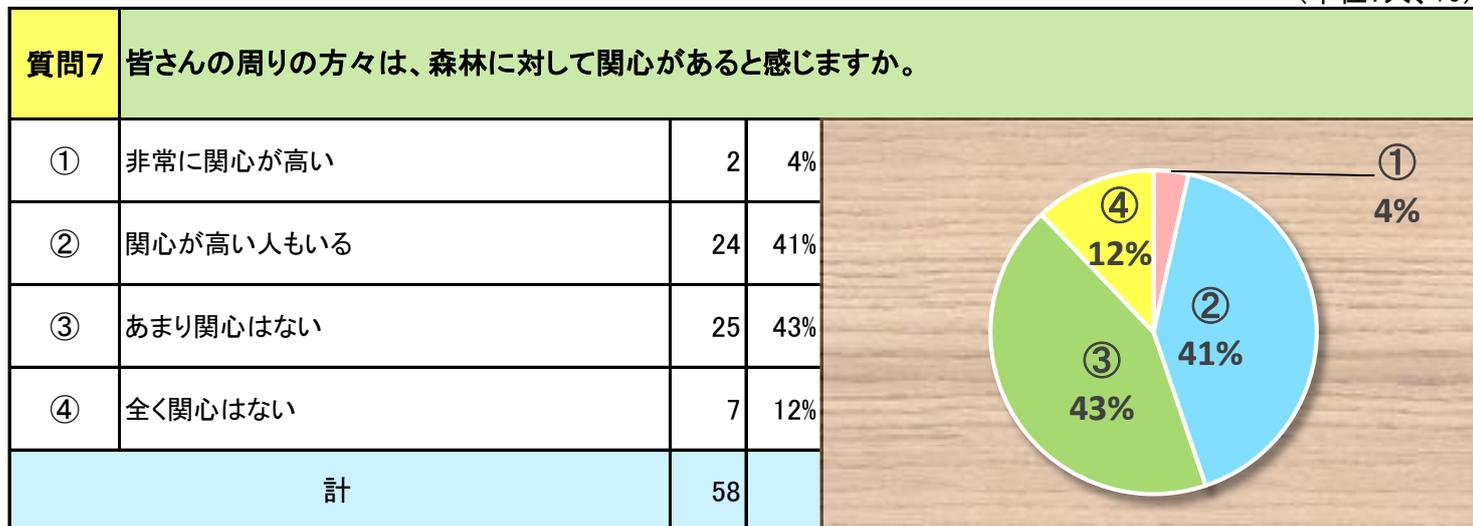
※複数回答可のため、回答数としています。

(単位:回答数、%)



※複数回答可のため、回答数としています。

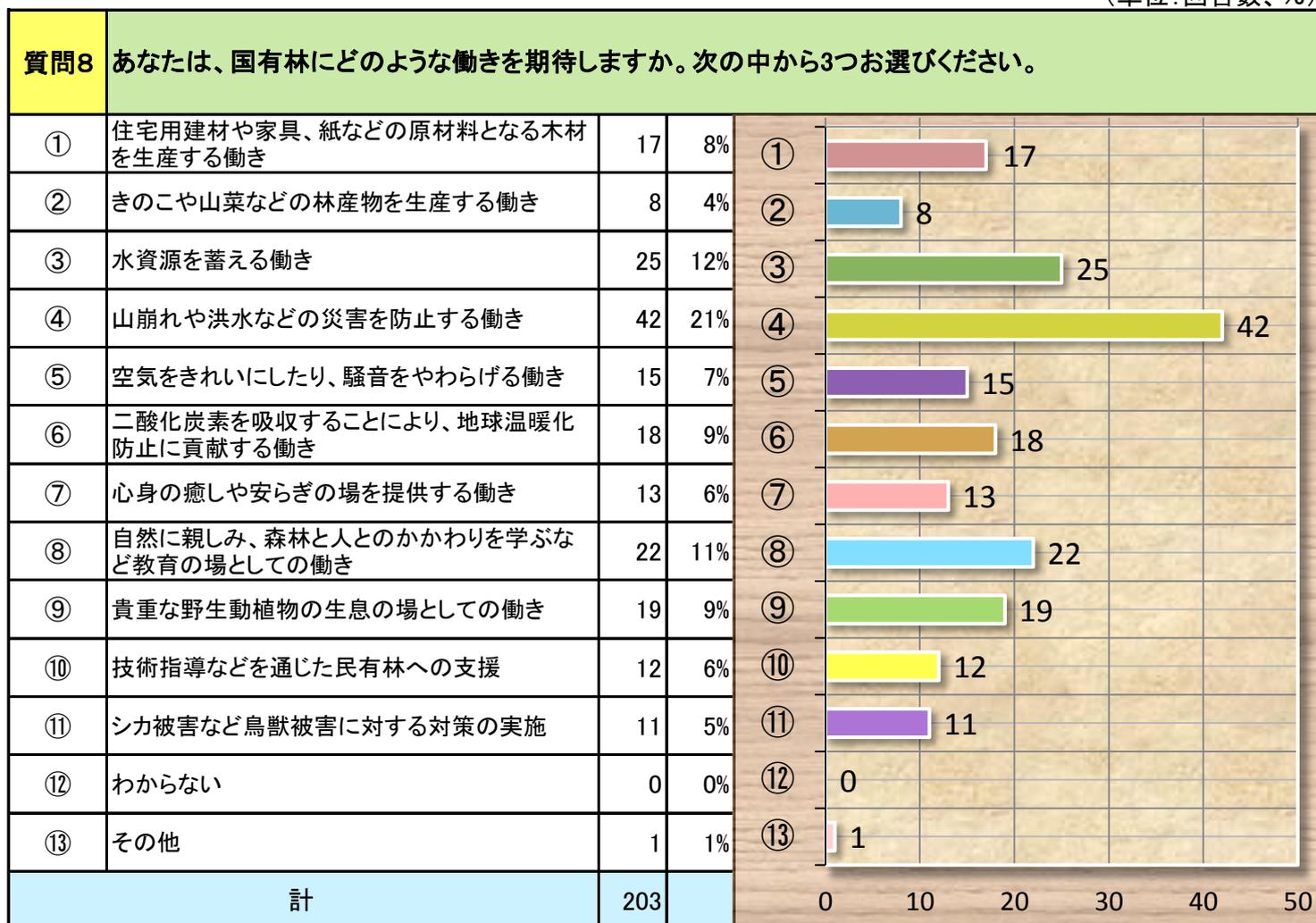
(単位:人、%)



※61名の内3名無回答

2 国有林への期待と森林や林業の課題について

(単位:回答数、%)



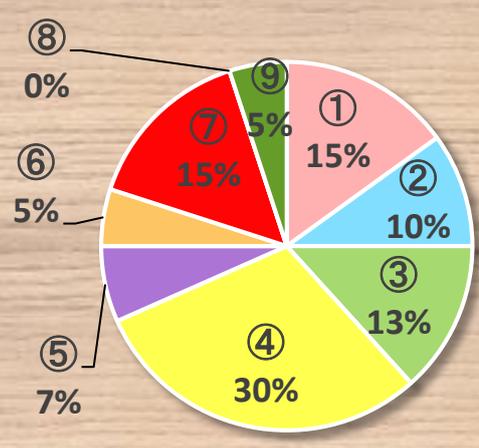
【その他の意見】

・木材価格が安すぎて林業が成り立たなくなっており、これから森林は人の手が入らずにどんどん荒れ放題になってくると思います。災害を防ぐためや雇用を産むためにも、自伐型林業事業体の育成を。組織体のチェーンソーやトラック、什器など道具の支援、国有林の森林整備依頼、そして技術教育などを行って、国有林を使い林業で生活できる体制をどんどん作ってほしい。

※複数回答可のため、回答数としています。

(単位:人、%)

質問9	森林・林業を取り巻く課題はたくさんありますが、最も早急に取り組む必要があるとお考えのものを1つお選びください。		
①	シカやイノシシなどの鳥獣被害対策	9	15%
②	貴重な動植物や景観の保護	6	10%
③	人工林の整備	8	13%
④	森林作業の担い手確保	18	30%
⑤	森林環境教育や森林に関する情報発信	4	7%
⑥	木材の利用拡大	3	5%
⑦	不在村山林所有者の所有する森林の境界明確化	9	15%
⑧	緊急の課題はない	0	0%
⑨	その他	3	5%
計		60	



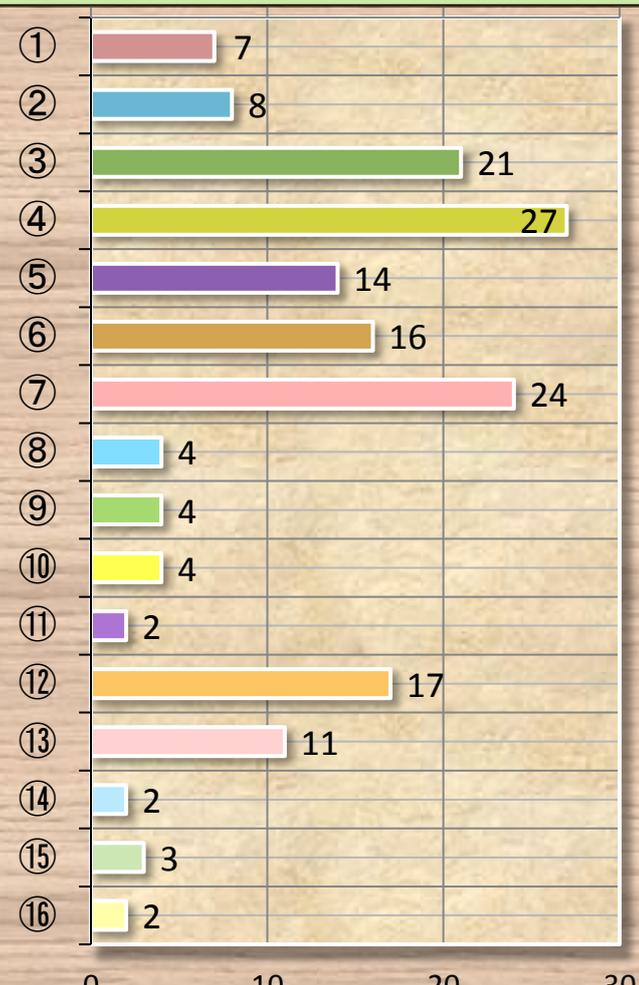
【その他の意見】

・どれも早急に手を打たないといけないのではないかと思います。一つに絞ることが難しいです。
 ・花粉症などの対策
 ・危険・汚い・給料安い・木材安い・休み無の林業など、生活できず誰もしない。でも、そこを支援しないとどんどん山林は荒廃し、数年後の山林は確実に荒れ放題になり、土砂災害がもっと増えます。そこで、林業でしっかり生活できるような支援(道具・場所・教育・他産業並みの収入給料・休日確保)の支援をするカリキュラムを作り、自伐型林業や副業型林業の早急な組織づくりが必要かと思えます。

※61名の内1名無回答

(単位:回答数、%)

質問10	4月に送付させていただいた、近畿中国森林管理局の「平成29年度の重点取組事項について」の中で、関心が高かったものがあれば選択してください。(3つまで)		
①	森林吸収源対策の推進	7	4%
②	多様な森林整備の展開	8	5%
③	シカ被害対策	21	13%
④	治山対策の推進	27	16%
⑤	生物多様性の保全	14	8%
⑥	林業の低コスト化の推進	16	10%
⑦	民有林と国有林が連携した森林整備等の推進	24	15%
⑧	フォレスター活動の推進	4	2%
⑨	技術開発と普及	4	2%
⑩	早生樹、エリートツリーの活用による森林資源の再造成への挑戦	4	2%
⑪	林産物の安定供給	2	1%
⑫	森林とのふれあい、森林環境教育の推進	17	10%
⑬	「日本美しの森 お薦め国有林」	11	7%
⑭	双方向の情報受発信	2	1%
⑮	伝統文化の継承への貢献	3	2%
⑯	大学、試験研究機関との連携の強化	2	1%
計		166	



※複数回答可のため、回答数としています。

質問11

「平成29年度の重点取組事項について」やこれまで送付させていただきました各種資料の中で、特に分かりづらい専門用語などがありましたらお聞かせ下さい。

1. 用語に対するご意見

- 全体的に、難しい専門用語が多すぎると思う。単純で分かりやすい表現に努めるべきではないでしょうか。
- 専門用語ではありませんが、林野6月号4, 5ページ 治山事業の概要では用語の使い方が、少し異色です。山腹、植生、裸地、雨滴、等、などかみ砕いた表現にする方が良いと思います。
- 特にありません。用語の解説集は写真付きで非常にわかりやすいです。よくをいえば、子供に見せることを目的として、子供版があればよいとおもいました。
- 「重点取組事項」
 - ①ひとつの文章が長いのが多いので、わかりにくい。短い文を多くしたほうがよい。
 - ②漢字が多いので、一目見て、固い感じをうける。ひらがなを増やしたほうがよい。(等→など 箇→か、ヶ)
 - ③「齢級」→ルビを
 - ④16P コンテナ苗？
 - ⑤21P ポテンシャル 日本語で
 - ⑥24P ボトルネック 意味がわからない 日本語で
 - ⑦25P トレイル 日本語で
 - ⑧26P ドロップネット？
- 初めて目にする用語が多いですが、前後の文脈等でなんとか理解できます。
- 保安林について、報道でも少なく、いろいろと事例をわかりやすく出して、知りたいです。
- 『用語の解説』を頂いていますので、まずこれで調べています。大変役立ちます。
- やはり、カタカナの多用は、一般市民にとっては、理解し辛いのではないかと感じる。漢字表記であれば、ある程度の理解が及ぶのだが、特にアルファベットでの表記のもの(LiDARデータ等)は、正直、分からない。ただ、資料の中に、例えば<FIT電力の固定価格買い取り制度>のように注釈を付けているものもあることを思えば、多少長い説明になっても、日本語での表記を第一選択としてもよいのではないだろうか。
- 特に分かりづらい専門用語というわけではないのですが 公益的機能維持増進協定で可能なこと不可能なこと、森林総合監理士の作業内容は何ですか。
- 分かりづらい専門用語は特にありません。ただ、勉強不足で京都議定書たるもの、中身がよくわかりません。どこかに「注」としてかいつまんだ解説を挿入してもらえたらよかったですと思いました。

○お寄せいただきましたご意見につきましては、今後の資料作成等に生かし、より分かりやすいものを提供できるよう努めてまいりたいと存じます。

2. 分かりづらい用語

●治山事業

保安林を守り育てることによって、山崩れなどの山地災害から住民の生命・財産を守ることや森林が持つ水源のかん養機能を高めたり、さらには緑豊かな生活環境の保全・形成等を行う事業のことです。

●日本森林学会

日本森林学会は、1914(大正3)年に創立された、森林・林業を総合的に扱う日本で唯一の学会です。環境の維持増進と林産物の供給などの森林の価値や機能に関する研究の発展に努め、国民ひいては人類の生活・文化の向上に貢献しています。

●山地災害

集中豪雨や地震等により、山地の崩壊・土石流・地すべり等が発生すること。

●林業遺産

日本各地の林業の歴史を読み解き、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、2013年度から日本森林学会による「林業遺産」選定事業が開始されました。

●鈹肥(おび)林業及び弁甲材(べんこうざい)

鈹肥林業は、1ヘクタールあたりの植栽本数を通常より少なくし、枝打ち無し、間伐無しで肥大成長を図る林業のことです。そこで収穫された鈹肥杉は、軽量で浮力が大きく、耐衝撃に優れた品種であったため、弁甲材(木造船の材料)として広く用いられました。現在は、木造船の建造が廃れたため、建築用材として利用されています。また、2014年度に九州初となる林業遺産に選定されました。

「林野6月号」に詳しく紹介されていますので、ご覧下さい。

●森林整備推進協定

国有林と民有林との間で森林施業の一体化を図り、民有林と協調して合理的な路網の整備及び効率的な森林整備等を一層推進し、地域の林業の振興に寄与すること。

●森林総合監理士(フォレスター)の主な業務

・構想の作成

地域の森林の整備、林業や木材産業の活性化の進め方について、自然的・社会経済的条件を踏まえ、長期的・広域的な視点に立った構想(マスタープラン)を描きます。

・合意形成

地域の森林・林業関係者(森林所有者、森林組合、素材生産業者、木材加工業者、行政関係者等)や住民の間で、構想(マスタープラン)についての合意形成を図ります。

・構想の実現

構想(マスタープラン)の実現に向け、制度や予算等を活用しながら具体的な取組を進めます。

●トレイル

森林や原野、里山などにある「歩くための道」のこと。

●ドロップネット

空中に網を張り、シカが網の下に来た時に網を落として捕獲するワナのこと。